

第1回行政評価委員会における各施策への質問

資料9-3

NO	取組番号・取組名	質問	回答	担当課
1	17 観光・交流・文化の振興	アウトドア交流都市に向けて、立地・マーケットでの利点を生かして積極的に企業誘致や三田市内の企業とのタイアップ等は個別に検討してもらえるのか。	千丈寺湖畔において、アウトドア施設の運営や体験型プログラムの提供について取り組み意欲をもつ、民間事業者等の発掘と事業の実現可能性を確認するため、年内にサウンディング調査の実施を検討しています。 現在、調査の受託事業者と実施時期や方法等について調整しています。	アウトドア交流推進課
2	17 観光・交流・文化の振興	アウトドア交流都市について、関連の施設を呼び込むのかなど具体的なプロジェクトについて聞きたい。 千丈寺湖畔の活性化と周辺の交通状況などの安全対策について不安を感じている。	千丈寺湖畔の賑わい創出は、民間事業者等によるアウトドア施設の運営や湖畔の地域資源を活用した体験型プログラムの実施を進めることを目標としています。具体的な内容及び安全対策等については、地域にも訪問者にもよるこんでもらえる環境づくりを検討していきます。	アウトドア交流推進課
3	17 観光・交流・文化の振興	成果指標にある「3文化財施設のプログラム参加者数」は学芸員の配置など重要になると思うので、常勤スタッフの配置がどうなっているのかなど基本データを示して欲しい。	スタッフの配置については、本庁の文化スポーツ課に学芸員1名、三輪明神窯史跡園に職員3名、三田ふるさと学習館に職員1名、旧九鬼家住宅資料館に職員1名を配置しています。	文化スポーツ課
4	17 観光・交流・文化の振興	市で行われる大規模なイベント(夏に行われた有馬富士のフェス、駅前や郷の音ホールでのイベント)を知らなかったということが多く。告知の方法など工夫をすると目標値に近づく物もあると思う。SNSなどでの情報発信を行政職員が日々行うことは大変だが、うまく市民が関われる方法により特定の職員への負担軽減が図れると思う。	市では、市広報紙やホームページのほか、公式Instagram「さんだスマイル」を運用しており、多くの市民等に投稿いただきながら、三田の魅力を発信しているとともに、大きなイベントではインスタキャンペーンを行い、フォロワーの増加に向けた取組みも実施しているところだ。 市内のイベントには市や民間が主催するものがありますが、更なるSNSの活用も含めて様々な媒体を通して、より多くの方へ情報が届けられるように努めていきます。	まちのブランド観光課
			総合文化センター(郷の音ホール)でのイベント情報の発信につきましては、施設の指定管理者による情報発信業務として、施設ホームページや紙媒体(Sat-net)の新聞折り込みとともに、Web配信(Facebook、Twitter、Instagram、YouTube)等により情報発信を行っています。また、市民が作成した動画を施設のホームページで代行発信するサービスを実施しています。今後も新たな情報サービスとして充実していく予定です。	文化スポーツ課

第1回行政評価委員会における各施策への質問

資料9-3

NO	取組番号・取組名	質問	回答	担当課
5	17 観光・交流・文化の振興	<p>コロナ禍での施設の状況やイベント実施の考え方などを知りたい。また、今後の感染状況に対応しイベント等の実施についての考え方(実施を控えるのか、何か考えていることがあるのか)聞きたい。</p>	<p>これまでも感染状況に応じてオンラインを活用したり、分散型で実施するなど、様々な工夫をしながら取り組みを行ってきていますが、今後も引き続き、コロナ禍でのイベント実施等の取り扱いは、国や県の方針に基づき対応していきます。</p>	まちのブランド観光課
6	17 観光・交流・文化の振興	<p>まち博について、昨年度出展したところ定員割れとなり、広報が難しいと感じている。今後の進め方や、目標などを聞きたい。多様な人が小さなイベントを実施する理想的な形だが、小規模な団体にすべてを任せることは広報など難しい。実施にあたって配慮してきたこと、配慮することなど反省も含めて聞きたい。</p>	<p>さんだまち博の広報については、パンフレットや専用HPによる幅広い広報については市事務局が行い、プログラム主催者には「さんだまち博」をステップとして、自立した持続可能なプログラムに磨きあげていただくため、ターゲット等に応じた独自の広報を行っていただいています。</p> <p>昨年度は、プログラム主催者同士のつながりが少なかったという課題がありましたので、今年度はすべての主催者のプログラム情報をできる限り早い段階から共有したり、プログラム主催者同士がつながりあえる機会づくりに努めており、新たな連携も生まれています。</p> <p>今後も、プログラム主催者の声を聞きながら、より良い連携や支援を行っていきたいと考えています。</p>	まちのブランド観光課